

令和8年度那須塩原市 市政運営方針について

1 はじめに

平成17年1月の那須塩原市誕生から20年が経過し、那須塩原市に関わる全ての人々と共有したいコンセプトとして、昨年3月に那須塩原市のパーパス「好きを、編む。」を策定しました。先人たちが築いてきたこのまちを子や孫やその先にとずっと元気なかたちで受け継いでいくために何ができるか、ワークショップ開催やインタビューイベント実施を通じて那須塩原市に関わる多くの方々と対話や議論を重ね、策定したものです。

このパーパスを軸に、市の付加価値やブランド力を高めるとともに「住んでいれば生き延びられる」那須塩原市を実現し、将来世代へ受け継いでいく、そのための取組を進めております。

市民及び議員の皆様には、本市の市政運営に更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 令和7年度の総括

令和7年度は、第2次総合計画後期基本計画の中間年に当たり、総合計画に掲げた4つの重点推進テーマ及び人口減少社会に対応する新たなテーマ「若者・女性から選ばれる地域」の着実な推進に取り組んでまいりました。

(1) 移住促進と地域ブランディングの強化

パーパス「好きを、編む。」を軸に、名刺を活用したパーパスの普及やイベントへのブースの出展など、認知度向上に向けた取組を進めてきました。

移住促進では、那須地域定住自立圏移住ポータルサイト「那須にすんで、」を構築し、近隣市町と連携した取組を進めており、7年連続で転入超過を継続しております。

(2) 那須塩原駅周辺のまちづくりの推進

新庁舎建設においては、当初の入札が不調となり、皆様に御心配をお掛けしたところですが、新市建設計画で市民の皆様にお約束した新庁舎建設の実現に向け、着実に進めていくよう取り組んでおります。

那須塩原駅周辺のまちづくりでは、まちづくりフォーラム那須塩原～「駅前（まち）は歩いてたのしいか？」～やプレイスメイキング社会実験を実施し、引き続き駅前広場や大通りなどの公共空間と民有地を含めた一体的な空間の在り方を検討しております。

(3) 環境政策と持続可能なまちづくりの推進

「2050 Sustainable Vision 那須塩原」の実現に向け、ネイチャーポジティブ那須野が原アライアンスにおける企業・団体との連携推進、那須塩原市サステナブルセンターの設置、青木ゼロカーボン街区構築事業の推進、サーキュラーエコノミービジネスモデル事業などに取り組みました。

(4) 官民連携事業の推進

セブン-イレブン・ジャパンとの連携では、国立公園の自然環境保全のための寄附金付き電子マネー販売やシカ柵設置等の保全活動のほか、那須塩原牛乳を使用したオリジナル商品の発売を実施し、生乳の消費拡大とブランドイメージの向上

に取り組みました。

八芳園との連携では、TAKANAWA GATEWAY CITY での那須塩原ブランドの販売等プロモーションや、日本遺産構成文化財「松方別邸」と連携したイベントを開催するなど、市内外で戦略的な魅力発信を展開しました。あわせて、相互の人材交流を行い、地域課題の解決や職員の資質向上にも取り組みました。

そのほかにも、民間事業者等との連携協定により、災害対応や財源確保、空き家等対策など行政課題の解決に向けた取組を進めております。

(5) 市民との協働による未来創造

引き続き市民懇談会や市長とのわくわくトークを実施したほか、那須拓陽高校生がアレンジしたオーストリアの伝統菓子の「リンツァーアウゲン」を大阪・関西万博オーストリアパビリオンレストランで販売するなど高校生との協働にも取り組みました。

(6) その他着実に取り組んでいくもの

持続可能な観光の促進では Green Destinations アワードにおいて関東地方では初のシルバーアワードを受賞したほか、スポーツツーリズムの取組としてウクライナ・リトアニア選手団の東京 2025 世界陸上事前キャンプの受入れを行い、国内外への情報発信と本市のブランド力の向上を図りました。

教育・子育て環境の充実では、第6回日本子育て支援大賞を受賞したほか、学びの多様化学校プリズムなどの実現に向けた取組を進めました。

公共施設マネジメントの推進では、公共施設の在り方について検討を進め、旧寺子小学校及び旧ひがしなす保育園の民間事業者による利活用を進めることができました。

3 令和8年度市政運営の基本的な考え方

我が国では、頻発する自然災害や甚大な被害が想定される大規模地震への対処、老朽化したインフラの保全、エネルギー・食料・経済安全保障の確立など、強靱な経済構造をつくるための課題が山積しています。国際環境においても、力や威圧による一方的な現状変更の試みが続いているほか、保護主義的な動きが散見されるなど大変厳しい状況にあると認識しております。

このような国際環境の中、市民生活においては原材料価格の高騰等による物価高が続いており、物価上昇を上回る賃上げの普及・定着が必要となっております。

地方創生においては、国が地方創生2.0基本構想を定めました。少子化対策等により、今後の人口減少のペースが緩まるとしても、当面は人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていくことが重要であるとの認識のもと、付加価値創出型の新しい地方経済の創生の推進などが求められています。

そのような中、本市においては、移住相談は年々増加し、転入超過を7年間維持しておりますが、更なる取組の必要性を感じているところです。市民一人一人が「好きを、編む。」ことができる環境を整え、市民の幸せ（Well-being）を向上させていくため、子育て支援、教育環境の充実、福祉サービスの拡充など、市民生活の基盤となる分野において、質の高いサービスを提供すること及び本市の将来を担う次世代の育成とのバランスが重要であるとの認識のもと、引き続き総合計画に掲げた4つの重点推進テーマ及び「若者・女性から選ばれる地域」の着実な推進を図り、地域の付加価値を高めていく施策を進めてまいります。

4 令和8年度の主要施策

令和8年度の予算編成においては、昨年度に引き続き、総合計画の重点推進テーマのほか、人口減少社会に対応する新たなテーマ「若者・女性から選ばれる地域」に取り組んでまいります。

また、地方創生を推進する観点から国の地域未来交付金を積極的に活用し、昨年策定した市のパーパス「好きを、編む。」に沿ったまちづくりの実現に向けて施策を推進してまいります。

(1) 特色のある教育・子育て、ウェルネス（ニューノーマル）

子供たちの学びの場の選択肢を増やすため、三島中学校の分教室として学びの多様化学校プリズムを設置するほか、近年の気候変動の状況に鑑み、小中学校体育館の空調整備に取り組みます。

また、ヤングケアラーについての周知活動、ひきこもり支援に取り組むほか、障害者就労支援コーディネーターの設置や要支援児童放課後応援事業の拡充を実施します。

(2) 那須塩原駅周辺のまちづくりなどの県北拠点づくり（県北拠点づくり）

那須塩原駅周辺のまちづくりについて引き続き重点プロジェクトとして位置づけ推進するとともに、新庁舎建設についても市民に愛されるシティホールとなるよう着実に進めていきます。

また、那須塩原駅周辺のまちづくりにあわせて、都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づく取組を推進するとともに、県北の拠点としてふさわしいまちづくりに向け、牛乳等による地域活性化推進事業や観光マスタープラン推進事業などシティブランディングに取り組んでいきます。

(3) サステナブルビジョン（ゼロカーボン）

「2050 Sustainable Vision 那須塩原」の実現に向け、環境部門における更なる連携を図り、ネイチャーポジティブ那須野が原アライアンスにおける企業・団体との連携推進、自然環境保護地区拡張事業、青木地区ゼロカーボン街区、脱炭素に係る地域企業連携、サーキュラービジョンに基づく資源循環に引き続き取り組み、これらの施策の相乗効果による同時実現を目指します。

また、人の生活圏への出没が相次ぐクマ対策についても、市民の安全安心の確保に努めるとともに、野生生物との共生社会の実現のための取組を進めます。

(4) デジタル・トランスフォーメーション（DX）

個別最適な学びと協働的な学びを推進する観点から学習用タブレットの更新や校務支援システムのクラウド化を軸とした教育DXを推進するとともに、学校開放予約システムの整備を進め、効率的な学校開放に取り組みます。

また、ゆーバスにおける交通系ICカードの整備や介護認定照会システムの導入に取り組み、市民生活等の利便性向上を図ります。庁内においては、BPRの手法に基づく業務分析等を進め、効率的な業務運営に努めます。

(5) 若者・女性から選ばれる地域

本市では7年連続の転入超過となっていますが、若者・女性をはじめとする方々に引き続き本市を選んでいただけるよう移住・定住促進を推進します。

また、次世代の育成として、中学生を対象に姉妹都市提携10周年を迎えるオーストリア・リンツ市との交流事業、台湾ボーディングスクールへの夏季短期留学支援事業のほか、子育て世代に係る医療費助成手続についてオンライン化による利便性の向上に取り組みます。

5 むすびに

那須塩原市は誕生から20年という節目を経過し、今年は22年目となります。この間、地方行政を取り巻く環境は厳しさを増しており、本市の人口も平成22年をピークに減少に転じています。転入・転出の状況では、本市は7年連続の転入超過となっていますが、引き続き移住・定住先として本市が選ばれるためには本市の魅力をもっと発信していく必要があります。そのため、昨年策定したパーパス「好きを、編む。」を軸としたシティブランディングを推進してまいります。また、合併時の新市建設計画に記載された新庁舎建設については現下の物価高騰に鑑みスピード感をもって着実に進めているところであり、あわせて那須塩原駅周辺についても県北の拠点にふさわしい使いやすく人がにぎわうまちとなるよう取り組んでいるところです。

今後の市政運営においては、市民の皆様がなすしおぼら **Life** を満喫し、市民の幸せ (**Well-being**) を実現できるよう、さきに掲げた主要施策などに取り組み、付加価値を高め、持続可能なまちづくりを進めてまいります。